

金沢大学の偉大な先輩たち Great Predecessors of Kanazawa University

会期：2025年4月1日（火）～6月4日（水） 場所：中央図書館「思考の森」展示コーナー

附属図書館中央図書館の「思考の森」展示コーナーでは、図書館の蔵書を通じて金沢大学の歴史や知の遺産を実感できるような展示を常時行っています。今回は本学の前身校の一つ、第四高等学校（通称：四高（しこう））に在籍していた次の8人の著作や文章を集めました。

西田幾多郎（哲学者）／鈴木大拙（仏教哲学者）／徳田秋聲・井上靖・中野重治（作家）

中谷宇吉郎（物理学者）／谷口吉郎（建築家）／木村栄（天文学者）

●四高について 1887(明治 20)年に金沢に設置されたナンバーズクールと呼ばれる旧制高等学校の一つ（当初は第四高等中学校、1894年に四高に改称）。文系・理系ともに帝国大学進学を目指す優秀な学生を全国から集めた。旧制高校全体のキーワードである自由と自治に加え、四高については超然（社会や世俗から超越して、高潔な精神のもとで生きることを目指す）という校風で知られている。白線帽にマントと下駄といったスタイルで、街頭で寮歌を歌うパンカラ風は旧制高校文化の象徴だった。

●四高の校章 四稜の北の天空に輝く不動の極星をデザイン。中央図書館のどこかにもあります。

⇒行ってみよう：石川四高記念文化交流館（金沢市） ※金沢市広坂にある四高の建物を使った施設。現在閉館中

+ 金沢大学資料館（中央図書館と同じ建物内） ※金沢大学史についてのモノ資料を中心に展示。

■展示資料+関連施設案内 ※展示品はすべて中央図書館で所蔵している資料です。

1. 西田幾多郎（にしだ・きたろう、1870～1945、第四高等中学校（四高の前身）中退、その後四高教授）近代日本を代表する哲学者。「純粋経験」の概念をもとに日本初の体系的哲学書『善の研究』を執筆後、さらに探求を続け、「西田哲学」と呼ばれる独自の哲学体系を築いた京都学派の創始者。

① 西田幾多郎『善の研究』弘道館、1911年 ※西田の代表作の初版

② 西田幾多郎『意識の問題』岩波書店、1920年 ※西田が四高に寄贈したもの。自筆署名入り

⇒行ってみよう：石川県西田幾多郎記念哲学館（かほく市）



2. 鈴木大拙（すずき・だいせつ、1870～1966、第四高等中学校中退）

禅を中心とした日本の思想や文化を発信し続けた仏教哲学者。禅や大乘仏教に関する多数の著作を英語で著し、晩年まで国際的に活動。日本の仏教学者として最も著名な人物が大拙と言っても過言ではない。

③ 鈴木大拙『禅と日本文化（[正]・続）』（岩波新書）岩波書店、1940～1942年 ※序文は西田幾多郎が執筆

④ 鈴木大拙編『An index to the Lankavatara Sutra (Nanjio edition)』Sanskrit Buddhist Texts Pub. Society, 1934年 ※大拙が楞伽經 (Lankavatara Sutra)

に関する研究で博士号を取得した頃にまとめた索引。展示品は大拙が暁烏敏（あけがらす はや）に寄贈したもの。直筆署名入り

⇒行ってみよう：鈴木大拙館



3. 徳田秋聲（とくだ・しゅうせい、1872～1943、第四高等中学校中退）

自然主義から私小説へという日本近代文学のメインストリームを歩んだ、まさに文豪と称すべき作家。代表作は『徴』『爛』『あらくれ』『仮装人物』など。『光を追うて』では金沢時代を回顧している。

⑤ 徳田秋聲『縮図』小山書店, 1946年 ※秋聲最後の長編

⇒行ってみよう：[徳田秋聲記念館](#)



4. 中野重治（なかの・しげはる、1902～1979、四高卒）

有為転変の昭和時代を抒情詩からプロレタリア文学、入獄を経て転向文学へ変貌を遂げつつ生き抜いた大作家。代表作『歌のわかれ（金沢での青春時代を描いている）』『梨の花』『むらぎも』など。

⑥ 『北辰会雑誌』第90、92、99号 大正10（1890）～大正13（1891）年※ 中野重治は、四高在籍中、「北辰会雑誌」の編集に携わっており、短歌、詩、小説などを発表

⇒行ってみよう：[石川近代文学館](#) ※石川県ゆかりの作家たちを紹介。現在閉館中。



5. 井上 靖（いのうえ・やすし、1907～1991、四高卒）

『闘牛』で芥川賞を受賞後、『あすなろ物語』『しろばんば』『夏草冬濤』『北の海』など自伝的青春小説で名声を高め、『天平の薨』などの歴史小説の名手として世界的に評価される文豪。

⑦ 井上 靖『北の海』中央公論社, 1975年 ※井上の四高柔道部時代の思い出に基づいた小説

⇒行ってみよう：[石川近代文学館](#) ※現在閉館中。

6. 中谷宇吉郎（なかや・うきちろう、1900～1962、四高卒）

雪や氷の研究で知られる物理学者で、世界で初めて人工雪を作ることに成功。「雪の結晶の研究」で帝国学士院賞を受賞。科学についての啓蒙的な文章も多数書いており、名エッセイストとしても知られる。

⑧ 中谷宇吉郎『雪』（岩波新書）岩波書店, 1938年 ※「雪の結晶は天から送られた手紙」のフレーズで有名。

⑨ 中谷宇吉郎「立春の卵」『世界』第16号, 1947年4月 ※中谷の代表的な随筆の一つの初出版

⇒行ってみよう：[中谷宇吉郎雪の科学館（加賀市）](#)



7. 谷口吉郎（たにぐち・よしろう、1904～1979、四高卒）

東宮御所の設計等で知られる世界的建築家。文化勲章を受章。谷口の明治建築保存への強い思いに賛同した、同じく四高出身の土川元雄（当時名鉄社長）とともに、1965年愛知県に博物館明治村を開館した。

⑩ 谷口吉郎『雪あかり日記』東京出版, 1947年 ※装幀・挿画も担当

⇒行ってみよう：[谷口吉郎・谷口吉生記念金沢建築館](#)



8. 木村 栄（きむら・ひさし、1870～1943、第四高等中学校卒）

天文学者。緯度観測所長として精密な観測データを世界に発信して世界を驚かせ、予想値と観測値とのずれを補正する第3の項（Z項）の付与を提唱。この業績により、学士院恩賜賞、文化勲章を受章した。

⑪ 木村栄『Results of the International Latitude service from 1922. 7 to 1931. 0 Vol. 7-8』Published under the auspices of I. A. U., 1935-1940 ※木村が長年所長を務めていた岩手県水沢市の緯度観測所から四高に寄贈された報告書

⇒行ってみよう：[金沢ふるさと偉人館（金沢市）](#) ※木村以外にも今回紹介した8人を含む石川県ゆかりの偉人を多数紹介



■読書案内

- 金沢大学創基150年史 金沢大学創基150年史編纂部会, 2012年
- 近代を拓いた金沢の100偉人：金沢ふるさと偉人館創立30周年記念 北國新聞社, 2023.12